

J Aバンク佐賀における地域密着型金融の取組状況（平成 30 年度）

J Aバンク佐賀（佐賀県内 4 J Aと佐賀県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、J Aバンク佐賀中期戦略（平成 28～30 年度）に基づき地域密着型金融の推進に取り組んできました。

平成 30 年度の地域密着型金融の取組状況については、以下のとおりとなっております。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク佐賀は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク佐賀は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成 31 年 3 月末時点の J Aバンク佐賀の農業関係資金残高^(注 1)は 37,069 百万円（うち農業経営向け貸付金 30,194 百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注 2)残高は 4,581 百万円となっております。

(注) 1 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

2 J Aバンク佐賀が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】

(単位：百万円)

	平成 30 年 3 月末現在	平成 31 年 3 月末現在
農業	30,255	30,194
穀作	3,155	3,337
野菜・園芸	3,889	3,760
果樹・樹園農業	1,450	1,424
工芸作物	620	644
養豚・肉牛・酪農	13,933	13,769
養鶏・鶏卵	161	188
養蚕	—	0
その他農業	7,048	7,068
農業関連団体等	5,989	6,874
合計	36,244	37,069

- (注) 1 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人及び農業関係団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
- 2 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。
- 3 「農業関連団体等」には、JA及び専門農協とそれらの子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】

(単位:百万円)

種 類	平成30年3月末現在	平成31年3月末現在
プロパー農業資金	16,959	18,344
農業制度資金	19,285	18,725
農業近代化資金	12,111	12,663
その他制度資金	7,174	6,062
合 計	36,244	37,069

- (注) 1 「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているものをいいます。なお、プロパー農業資金には、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化資金等の原資資金が含まれております。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体が直接的又は間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク佐賀が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがありますが、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】

(単位:百万円)

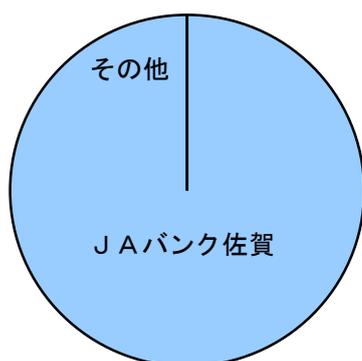
種 類	平成30年3月末現在	平成31年3月末現在
日本政策金融公庫資金	4,810	4,581
そ の 他	—	0
合 計	4,810	4,581

- (注) JAバンク佐賀では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

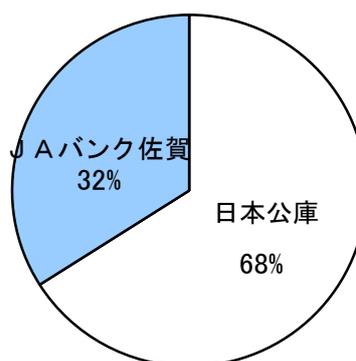
JAバンク佐賀は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金(公庫直貸除く)の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【佐賀県の農業近代化資金および公庫農業資金の取扱いシェア】

農業近代化資金 融資残高シェア
(平成31年3月末時点)



日本政策金融公庫 農業資金取扱いシェア
(平成31年3月末時点)



J Aバンク佐賀の県内シェア 100.0%

(単位：百万円)

	金額
佐賀県全体	12,663
うちJAバンク佐賀	12,663

J Aバンク佐賀の県内シェア 32.0%

(単位：百万円)

	金額
佐賀県全体	19,618
うちJAバンク佐賀	6,257

(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク佐賀では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

J Aでは、本支所の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、平成30年度末時点で4J Aと信連で・69名配置しています。

また、J A系統独自の農業融資資格制度「J Aバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は平成30年度末時点で県内に161名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

信連では、J Aのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。

佐賀県のJ Aグループでは、信連・中央会・共済連、J Aさが（県域機能）が一体となって「J Aグループ佐賀 担い手サポートセンター」を構築しており、共同訪問による出向く活動の実施、集落営農組織の法人設立説明・支援等の担い手育成支援を行っています。

また、情報共有システムとタブレットを導入して、部門横断的に情報を連携し、現場での相談に即対応できるよう、出向く体制を強化しています。

(3) J A内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJ Aをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、J A内事業間連携を強化しています。

(4) 農業メインバンクCS調査の実施と結果の活用

J Aバンクでは、J Aの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンクCS調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク佐賀では、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク佐賀では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金等を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

(単位 件、百万円)

	平成 30 年度 実行件数	平成 30 年度 実行金額	平成 31 年 3 月末 残 高
青年等就農資金	89	399	1,108
就農支援資金	—	—	37
JA新規就農応援資金			110
合計	89	399	1,255

(2) 農商工連携の推進

J Aバンク佐賀は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【平成 30 年度 商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加 団体数	内容
JA・JF グループ九州・ 沖縄食の発信商談会	平成 31 年 2 月 20 日	農林中央金庫 ・九州各県信連	セラー44 バイヤー24	首都圏や関西圏への農畜産物の販路開拓を目的に開催し、佐賀県内から野菜・果物、鶏肉加工、魚介等 6 業者が参加



(3) J Aバンク佐賀講演会・セミナー等の開催・参画

J Aバンク佐賀では、一流の経営者を招いた講演会や、6次産業化・輸出・ファンドに関するセミナー等を開催し、担い手の経営力向上に貢献しています。

【平成 30 年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象 参加者	参加者数	内容
佐賀県農業法人 協会セミナー	平成 30 年 7 月 19・20 日	佐賀県農業 法人協会	協会会員	30 名程度	「JGAP 指導員基礎研修会」
県域担い手 SC セミナー	平成 31 年 1 月 21 日	県域担い手 SC・佐賀県生 産組合連合 協議会	農業経営 者・後継 者・JA 職 員等	150 名程度	「地域の再建は農産漁村 の活性化から」

(4) 農業法人とのネットワーク拡大

J Aバンク佐賀では、農業法人とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでいます。農業法人協会・稲作経営者会議の賛助会員として、セミナーや研修会等でJ Aバンク利子補給事業や新規就農応援事業等の周知徹底に努めております。

(5) 被災者等への支援

J Aバンク佐賀では、平成30年7月豪雨の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
平成30年7月豪雨にかかる災害資金の対応	信連（日本政策金融公庫）	信連では、平成30年7月豪雨で被害を受けたJAの組合員に対し、日本政策金融公庫の資金であるセーフティネット資金にて、支援を行った。	3	8

(6) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク佐賀では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【平成30年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

		期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A
正常先①		20	1	—	18	5.0%	—
要注意先	うちその他要注意先②	112	12	21	81	10.7%	18.8%
	うち要管理先③	31	6	10	17	19.4%	32.3%
破綻懸念先④		110	9	6	88	8.2%	5.5%
実質破綻先⑤		98	2	3	69	2.0%	3.1%
破綻先⑥		4	0	0	1	0.0%	0.0%
計 (②～⑥の計)		355	29	40	256	8.2%	11.3%
合計		375	30	40	274	8.0%	10.7%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成31年3月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

J Aバンク佐賀では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み（ファンドの活用）

J Aバンク佐賀では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に対し、アグリビジネス投資育成株式会社のファンドを紹介するなど、成長を支援しています。

なお、アグリシードファンドの実績としては、平成 31 年 3 月末現在で 4 件 35 百万円の出資が行われております。

(2) 6次産業化の支援

J Aバンク佐賀では、担い手の所得向上を支援するために、生産と販売のマッチング機能強化や、需要拡大が見込める分野の事業展開支援、いわゆる 6 次産業化促進支援を行っています。

(3) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク佐賀では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成 30 年度 負債整理資金の貸出実績】 (単位 件、百万円)

資金名	平成 30 年度 実行件数	平成 30 年度 実行金額	平成 31 年 3 月末残高
農業経営負担軽減支援資金	—	—	1 4 9
畜産特別資金	—	—	5 3 8
その他	1	5 2	1, 5 1 7
合計	1	5 2	2, 2 0 4

- ・ 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- ・ 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク佐賀では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 食・農への理解促進

J Aバンク佐賀は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、J Aバンクを通じて、県下の小学校へ約 1 万冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下 J Aでは、食農教育などの実践活動に取り組んでいます。



【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAさが	ちゃぐりんキッズ	田植え・稲刈り、野菜・果物の収穫などの農業体験および収穫物や地元食材を使用した料理体験など幅広く行っています。
JA佐賀市中央	野菜作り体験	
JAからつ	稲作体験教室	

(2) 環境保全への取組み

① 「県内一斉ふるさと美化活動」への参加

佐賀市内で実施された「ふるさと美化活動」に参加し、JA会館周辺など駅前中心部の清掃活動を行いました。



② 「森林整備活動」への取組み

農業専門金融機関として、佐賀県の基幹産業である農業に不可欠な水と大地を守り、豊かな暮らしと地域発展につなげるため、森林整備活動を行っています。

平成27年度から植樹活動を行っている「サンクスの森」では、クヌギやサクラなど6種類の苗木を新たに100本植樹するとともに、苗木の生長を促すための雑草の除去（除草）とその周辺での清掃ボランティア活動を実施しました。

また、森を訪れた人の憩いの場となるよう、「サンクスの森」内にテーブルとベンチを設置しました。



以上